



2022-23 年度
国際ロータリー会長
ジェニファー・ジョーンズ

Weekly Report Niigata



2022～23 年度
新潟ロータリークラブ会長

石川 治彦

新潟 RC 2月第 4例会 (2023.2.28) (Zoom 例会併催) No.3449

(1) ロータリー——ソング「それでこそロータリー」

ピアノ演奏

(2) 訃報

悲しいお知らせをしなければなりません。鈴木滋弥元会長が、2月4日にご逝去されました。心からご冥福をお祈り申し上げ、黙とうをしたいと思います。

～鈴木 滋弥元会長を偲び黙禱～

(3) 石川 治彦会長挨拶

明治の日本庭園の紹介を進めてみたいと思います。なんといっても庭園の歴史において外せない人物がいます。

明治の時代に活躍しました、植治の作庭家・七代目小川治兵衛です。本日はその作品をご紹介します。

小川治兵衛は幕末の万延元年（1860年5月25日）京都に生まれ、近代日本庭園の先駆者と言われる作庭家で、屋号の植治と呼ばれていました。

明治10年（1877年）に六代目小川治兵衛の養子になり、明治12年（1879年）に七代目小川治兵衛を襲名しました。現在も京都にて株式会社 造園 植治として11代小川治兵衛がその伝統を守っています。

7代目小川治兵衛は、明治初期、京都東山・南禅寺界隈に新たに形成された別荘地において、東山の借景と琵琶湖疎水の引き込みを活かした近代的日本庭園群（南禅寺界隈 疎水 園池 群）を手掛けました。

その代表的なものとして、国の名勝の無鄰菴（山縣有朋別邸）平安神宮神苑などがあげられます。

また非公開ですが 真々庵（旧松下幸之助別邸）現在パナソニックの所有となっており京都府指定文化財となっています。

小川治兵衛が活躍したのはいわゆる文明開化の時代であり、日本の伝統文化は大転換を強いられました、もちろん庭園も例外ではありませんでした。

そんな近代の庭園をリードしたのは、明治の元勳や新興の実業家たちでした。彼らは西洋諸国の文化を目のあたりに

し、大きなカルチャーショックを受け、日本庭園に改革をもたらしました。

その代表格ともいえる庭が、山縣有朋が七代目小川治兵衛に作らせた「無鄰菴」だともいいます。

「無鄰菴」の作庭には、最初から山縣有朋の奔放な注文がつけられました。まず“もみの木”を50本ほど入れよと命じたそうです。

これまで京都の作庭に“もみ”などは、決してこれまで用いられませんでした、次に“ドウダンツツジ”や“柊南天”を入れよとの依頼に。これらの植木を用いたのは、ここが始めてだと後年植治は語っていたそうです。

そして明治23年（1890年）に完成した無鄰菴はこれまでの常識を依頼主の山縣有朋と共に覆し後世に残る貴重な庭園となりました。

無鄰菴は琵琶湖疎水から引き込んだ水の流れが、庭に豊かな表情を与えていて、この琵琶湖疎水の流れは小川治兵衛の作庭の代名詞のようになっています。

同時期に建てられた母屋から庭を見ると、東山の山林を背景に、自然な林間といった風情の植栽の奥に、醍醐寺三寶院を模したともいわれる3段組の滝があります。

琵琶湖疎水から引いた水が滝から流れ落ち、幅の広い流れにも見える池を通り、芝生の広場を横切るように軽快な音を立てながら母屋の前まで流れていきます。

母屋からみた東山の借景を引き立たせるために丈の高い石組などは据えず、岸辺もサツキの刈り込みなど、背の低い木や草花でまとめあげています。この手法により、軽快で質素ともいえる雰囲気を作り出され、敷地の外には車が絶えず通過しているにもかかわらず、里山の小川のような情景となっています。

また樹木は、紅葉を楽しむためにモミジが多く植えられ、アカマツも要所に植えられています。これは単に山縣の好みというだけでなく、作庭当初の東山の風景に合わせて、東山と一体の景観となるような樹木を選んで植えたものと考えられます。

さらにこの庭園では、苔に代わって芝生が一面を覆い、西洋庭園の雰囲気漂わせています。

芝生を使った日本庭園も「無鄰菴」が最初であり、日本庭園はその催し物や後園遊会などの行事をとりおこなう公式の場としても、活躍するようになっていきました。

小川治兵衛は、明治期に入って西洋の文化が流入してきたことに対し、今までの創作スタイルや技術などの、これまでの日本庭園が歩んできた伝統の保持に注力した作家であると言われており、その庭園意匠が今日に至るまで非常に大きな影響力をもたらし、日本庭園のエッセンスを近代といった時代に合わせ、仕事をし、完成させたのが小川治兵衛、植治であったということです。本日の会長挨拶はここまでといたします。

(4) 小木将綱青少年奉仕委員長

ローターアクト地区大会ご案内

2023年3月18日(土) 13:00～ 記念式典

開催場所 ANA クラウンプラザホテル新潟

詳細、申し込みは28日までに新潟RC事務局へ

お願い致します。

(5) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(北爪 彰人委員)

徳永 昭輝 君

(6) ニコニコボックス紹介(関川 博信委員長)

- ・石川 治彦君 春らしくなってきましたので。
- ・榎本 隆克君 誕生日のワインをいただきましてありがとうございました。楽しみに頂きたいと思います。
- ・佐藤 隆夫君 結婚記念日のお花ありがとうございました。去年いただいたアマリリスが今年もまた咲きました。
- ・石橋 正利君 8人目の孫が生まれました。二人目の女の子です。とても可愛いのでニコニコします。

(7) 第54回米山功労クラブ感謝状披露

(8) 卓話「怒りの感情との上手な付き合い方」

Kアプローチ 菊野麻子 氏

鈴木滋弥元会長のご遺族より会員の皆様へ

(ご夫人 鈴木 妙子さんより)

ここ数年、感染症が流行していたこともあり、皆さまにお目にかかる機会も減ってございましたので、夫の病状と最期の様子につきまして、皆さまにお伝え申し上げたいと思います。

以前より、長く前立腺がんを患い、投薬治療を続けておりました。良いお薬を処方いただき小康状態を保っておりましたが、4年ほど前から、脚のふらつきやお手洗いのコントロールがうまくいかないといった症状が出始め、次第に悪くなって参りました。

あれこれと病院を回り検査をするのですが、はっきりとした原因が分からず、そうするうちに手のしびれ、口元の動きの鈍化、極度の低血圧などが見られるようになり、これら全てが、「多系統萎縮症」と呼ばれる小脳の疾患の症状であると診断されたのが2年前でございました。

これは、小脳の萎縮などが原因でおこる、運動失調や体内プロセスの機能不全を引き起こす疾患で、1万人に1人という進行性の難病であるそうで、薬もございません。

非常に進行が早く、すぐに外出も困難になり、大好きでした車も手放し、残念そうにしておりましたが、できる限りこれまで通りの生活を続けてもらえるよう、手すりや歩行器を使い、私がサポートをして過ごしておりました。

幸い、映画が大好きで、二階の居間に大きな椅子を置き、朝から晩まで飽きることなく映画を観ておりました。とくに海外の刑事物や、昔の西部劇などは大好きだったようです。

また、娘の仕事の都合で、二人の孫を保育園に迎えに行き、夜遅くまで賑やかな子供達の面倒を見るというお役目が週に2、3回あり、嬉しそうに目を細めて丁寧に相手をしておりました。

大変穏やかで優しく、明るく、忍耐強い性格の人でしたので、辛い病状でも弱音を吐くことも愚痴をこぼすこともなく、一日一日と、出来ることが減っていく中でも楽しみや幸せを見つけて過ごしておりました。

2月1日の昼、その日も何とか自力で二階から一階の居間へ降りてきて、食事をしておりましたが、嚥下機能が最近ずいぶん低下していると思っていました所へ、少し大きめだった食べ物が飲み込めずに引っかかり、私の見ている前で静かに意識を失いまして、救急搬送されました。

その後は目を開けることなく、2月4日の朝8時半、私と娘と孫たちの見守るなかで、安らかな旅立ちとなりました。

振り返りますと、夫は非常に幸せな人生だったと思いま

す。父親の会社を継ぎ、ロータリークラブと出会い、お友達にも恵まれ、大好きなゴルフを楽しみ、料理教室や囲碁教室にも通って本当に楽しそうな晩年を過ごしておりました。

ここに生前賜りました、皆様のご厚情に対し、厚くお礼申し上げますと共に、今後私ども遺族に、変わりなきご厚誼を賜りますようお願いいたします。

(ご長女 窪田那々子さんより)

ロータリークラブの毎週の例会に臨むことを何よりの生き甲斐にしていた父でした。

皆様とのあたたかい交流が父の最大の心の支えであり前を向き続けられた所以でした。ロータリアンでいられることを誇りにしていた父でしたので棺の中にはいつも例会に着て行ったスーツとネクタイとバッジを入れて送り出しました。もし向こうにもロータリーの支部がございましたら福地さんと一緒に喜んで通っていると思います。

どうぞ皆様に心からの感謝をお伝えいただけますようよろしく願い申し上げます。

皆様の益々のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

鈴木滋弥 遺族拝

(9) 2月28日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
88	85	61	71.77

Zoom 参加 9名

3月7日の例会予定

第一例会につき卓話なし

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/>